

## 第2章 “とちぎ”を動かす

経済・社会が地球規模で大きく変動するこの21世紀において、社会がいきいきと躍動し人々が心豊かに暮らしていくためには、これまでの成長を支えてきた社会経済システム全般にわたる変革が必要であり、現在、各方面において新たな「かたち」を模索する取組が進められています。

こうした中であって、私たちは、先人が築き上げてきた郷土の魅力と可能性を最大限に活かし、「自らの未来は自らの力で切り拓いていく」という挑戦する姿勢を持って、これからの“とちぎ”づくりを進めていきます。

### 第1節 “とちぎ”の将来像

少子高齢化による人口構成の大きな変化をはじめ、地球規模での環境問題や経済等のグローバル化、高度情報化の進展など、社会は今、時代の大きな変革期にあり、人々の意識や地域コミュニティのあり方もまた大きく変化しています。

こうした中で、私たちの郷土“とちぎ”を、希望と誇りの持てる自立した地域として発展させていくためには、その担い手である県民一人ひとりの個性や能力をはじめ、自然や文化、産業基盤など、本県が持つ優れた資源や飛躍の可能性を最大限に引き出していくことが必要です。

私たちが目指す将来像は、人々が豊かで活力に満ちた生活を営み、自然や街並み、そして人々の心が美しさとやさしさにあふれ、住む人にも訪れる人にも魅力ある郷土、そして未来の子どもたちにさらなる可能性を約束する郷土“とちぎ”。

この計画において、このような郷土の将来像を、

#### 「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」

として掲げ、200万県民の皆さんと一緒に、その実現に向けて全力で取り組んでいきます。

活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”

#### ～「新たな“公（おおやけ）”を拓く」～

これからの社会は、まず、人と人々が互いに認め合い、協力し支え合う社会としていくことが重要です。そして、多彩な「個」や「地域」が、ある時は切磋琢磨しつつ、それぞれの個性や能力を最大限に発揮することによって、社会は発展していきます。

特に近年は、住みよい地域づくりや社会的な課題の解決を図るため、県民一人ひとりはもちろんのこと、ボランティアやNPOなどによる自発的な活動が様々な分野で芽生えています。そうした中で、これまで“公（おおやけ）”として行政だけが担うものとされてきた分野についても、行政と協働しながら“公（おおやけ）”を担っていかうとする動きも生まれてきています。

こうした多様な活動は、人と人とのつながりを強めるだけでなく、物や情報のネットワークを広げ、新たな地域の魅力や活力を創造していくための大きな力となることが期待されています。

“とちぎ”の将来像を実現するためには、県民や団体、企業、行政など“とちぎ”づくりのすべての担い手が、郷土が抱える諸課題の解決に向けて、積極的に参画していかうとする主体的な姿勢を持つ必要があります。

そこで、この計画では、「行政のみが“公（おおやけ）”を担う」という従来の考え方から脱却して「新たな“公（おおやけ）”を拓く」という考え方に立ち、すべての人がお互いの立場や垣根を乗り越えて、郷土の課題に対して一緒になって取り組むことができるよう、これからの“とちぎ”づくりの原点となる「人と社会のあり方」を、「県民一人ひとりが主役の“とちぎ”」、「県民が協働する“とちぎ”」、「地域が自立する“とちぎ”」の3つの基本姿勢としてお示しするものです。

今後は、こうした考え方を県民の皆さんと共有することによって、本県の将来像である「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現していきたいと考えています。

地域が自立する“とちぎ”

県民が協働する“とちぎ”

“とちぎ”づくりの基本姿勢

県民一人ひとりが主役の“とちぎ”

## (1) 県民一人ひとりが主役の“とちぎ”

社会は人によって成り立ち、そして人は社会によって生かされます。

近年は、経済的な豊かさだけを追い求めるのではなく、他者や社会とのかかわりの中で生きることや人間として成長することに喜びを見出し、そして、精神的な充足感や真の豊かさを得ようとする考え方が広がりを見せ、自己実現に重きをおいた生き方、働き方を選択する動きが出てきています。

これからの“とちぎ”は、すべての県民が、学ぶこと、働くこと、生きることについて、その意味や目的、そして喜びや楽しみを見出すとともに、社会に積極的に参画し、貢献していく、

### 県民一人ひとりが主役となる社会

としていかなければなりません。

県民一人ひとりが、それぞれの個性を伸ばし、能力を高めるとともに、その個性や能力が最大限に発揮されることによって、活力ある地域が生み出されていきます。

## (2) 県民が協働する“とちぎ”

社会は人と人とのかかわりを通して形づくられていきます。

近年は、住民やボランティア、NPOなどによる多種多様な社会貢献活動が活発になっています。こうした活動は、「何か社会に役立ちたい」という県民意識の高まりを反映しており、身近な社会の問題を自らの問題として考え、そして行動することによって、自らはもちろん、周囲の人々にとっても心やすらぐ地域や社会を創造していこうとする意識の現れでもあります。

これからの“とちぎ”は、県民一人ひとりやボランティア、NPO、企業、行政などが、それぞれの立場を越え、さらには性別や世代といった垣根にとらわれることなく、連携・協力していく、

### 県民が協働する社会

としていかなければなりません。

すべての県民が、互いを認め合い、それぞれの個性や能力を持ち寄り、そして協力し支え合うことによって、真に豊かな地域が創られていきます。

## (3) 地域が自立する“とちぎ”

社会のありようは、地域自らが選択し決定できるようにすべきです。

地方分権や規制緩和に代表される改革の動きは、政治・経済分野にとどまらず、住民あるいは地域、企業などが、自らの将来の方向を自らが選択し決定できる社会を目指すものです。折しも、自発的な地域活動が各地で展開されるようになり、「地域のことは地域で解決する」という意識が、広く定着してきています。

これからの“とちぎ”は、地域のあらゆる主体が連携・協力し、主体的に課題を解決していく、

### 地域が自立する社会

としていかなければなりません。

自立する個人とその相互関係でかたちづくられる自立した地域が、これからの“とちぎ”づくりの原点であり、21世紀に“とちぎ”が飛躍する原動力となります。

## 2 5つの基本目標

こうした“とちぎ”づくりの基本姿勢のもと、本県の将来像「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現していくために、時代の潮流や本県の将来展望・発展可能性を踏まえ、県民生活を支える5つの視点から捉えた、私たちの目指す基本目標を設定します。

### 基本目標 1 知恵にあふれ心豊かな人づくり

〔教育・文化〕

「人」はすべての活動の源泉であり、地域の活力そのものです。

県民一人ひとりが、それぞれ持てる個性や能力を伸びやかに発揮し、いきいきと活動できる環境をつくるのが、地域の豊かさの源となり、そこから個性豊かな文化が息づく、心にぎわう魅力的な郷土が生まれます。

また、知識や学力だけではなく、創造性や積極性、協調性を備えた多様な人材を育成していくことで、これからの知恵の時代における夢と希望の実現を図っていきます。

### 基本目標 2 いのちをやさしく見守る社会づくり

〔人権・保健・医療・福祉〕

すべての「いのち」が輝く健やかな社会をつくっていくことが、私たちの願いです。

少子高齢化が急速に進行する中、地域のだれもが心身ともに健康で暮らせ、安心して子どもを生き育てることができ、高齢者や障害者が生きがいを持って暮らせる社会をつくっていくことがますます重要になります。

そうした環境を実現するために、家庭、地域、職場など、毎日の暮らしの中で、人と人とが認め合い、絆を大切に、互いが手をさしのべ支え合えるような社会づくりを進めていきます。

### 基本目標 3 確かな技術と創造性に富む産業づくり

〔農林・商工サービス・労働〕

豊かな生活は、創造性あふれる「産業」の発展に支えられています。

本県の恵まれた立地特性を最大限に活かし、生産の振興と高度な流通・サービスを展開するとともに、これまで蓄積されてきた産業集積や人的資源を活かし、豊かな知恵と絶えざる創意を織り込みながら、新たな技術やノウハウ、そして新しい付加価値を創造することで、本県産業の持続的発展を可能にしていきます。

また、産業構造の変化や企業ニーズの多様化に対応し、安定した雇用の確保や産業人材の育成を図っていきます。

## 基本目標 4 快適でにぎわいのある交流地域づくり 〔社会基盤・観光・国際化〕

快適な暮らしの空間と人・物・情報の盛んな交流が、「にぎわい」をもたらします。

秩序ある土地利用や安全で質の高い社会基盤を整備することにより、都会的な利便性と自然とふれあいながら暮らせる快適性という本県の有する優れた特徴にさらに磨きをかけ、豊かさを実感できる地域づくりを進めていきます。

そして、人と人とのふれあいを大切に、活力あるまちづくりやむらづくりを進めるとともに、魅力ある観光交流社会づくり、さらには経済や教育・文化などあらゆる面での国際化を進めることにより、交流の輪が広がり、その交流から新しい文化や情報が発信される、にぎわいの郷土をつくっていきます。

## 基本目標 5 安心のくらしを支える環境づくり 〔環境保全・防犯・防災〕

生活のすべてを支える「環境」を、安心で持続可能なものとして次世代に継承していくことが、今を生きる私たちの責務であると考えます。

自然環境を守り育て、産業活動やライフスタイルを環境負荷の少ないものへと転換するなど、循環型社会の形成に向けた取組を進めるとともに、治安・防災対策を充実し、だれもが安全・安心に暮らすことのできる空間づくりを進めます。

そうした取組によって、私たちが心穏やかに暮らすことができ、自信を持って未来へ引き継ぐことができる、美しくやすらぎに満ちた環境を創造していきます。



## 第3節 県土の姿・とちぎデザイン

時代が大きく変わりつつある中で、県土づくりの前提となる私達の暮らしや産業、環境との共生のあり方なども変化してきています。

このような時代の潮流に的確に対応し、地域の資源を活かし豊かで安全な暮らしと活力ある産業を実現する県土づくりを進める必要があります。

また、豊かでかけがえのない自然環境を保全し、この美しい県土を次世代に継承していかなければなりません。

ここでは、「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現するための県土づくりの基本方向と、“とちぎ”のデザインを示します。

### 1 県土づくりの基本方向 — 国土交流拠点“とちぎ” —

栃木県は、首都東京に近接し、東北縦貫自動車道や東北新幹線などが東京から本県を貫いて東北地方・北海道までを結び、多様で広域的な交流が行われています。また、首都圏の一翼を担う北関東の各都市を中心とした地域間連携が進められており、今後は、北関東自動車道の整備が進むことにより、この連携が一層強化されると考えられます。

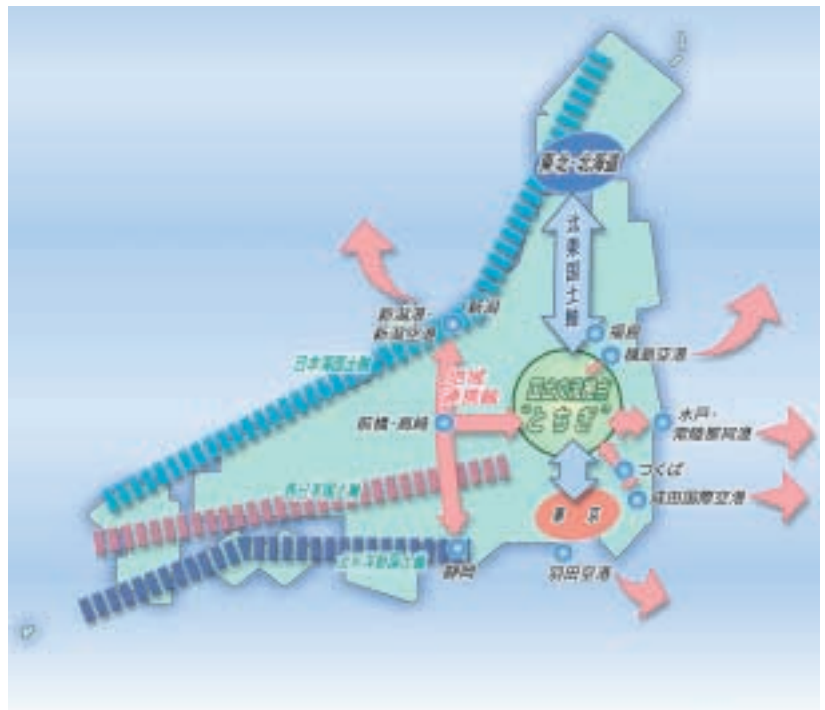
本県は、このような交流・連携の大きな軸の交差点に位置しており、交差することによる相乗的な効果が見込まれる発展可能性を有しています。

また、整備が進む高速交通ネットワークなどを積極的に活用することで、交流・連携を発展させ、

空港や港湾などを介し、“とちぎ”の人・物・情報の交流を全国、世界に広げることが可能となります。

この恵まれた条件の中で、本県が持つ特色ある地域資源を活かした県土づくりを行うことにより、様々なスケールでの交流・連携の成果を、県土の発展と県民生活の質的向上に結び付けることが県土づくりの基本方向となります。

そのために、地域間の交流・連携の基盤を強化・活用し、持続可能で自立・安定した地域づくりを進め、国内はもとより世界を視野に入れたあらゆる分野での「国土交流拠点“とちぎ”」を目指していきます。



「国土交流拠点“とちぎ”」の概念図

## 2 “とちぎ”のデザイン

県土づくりの基本方向である「国土交流拠点“とちぎ”」の実現を目指し、コリドールネットワークを基本として、地域の特色を活かした県土づ

くりと県外に広がる交流についてのデザインを描いていきます。

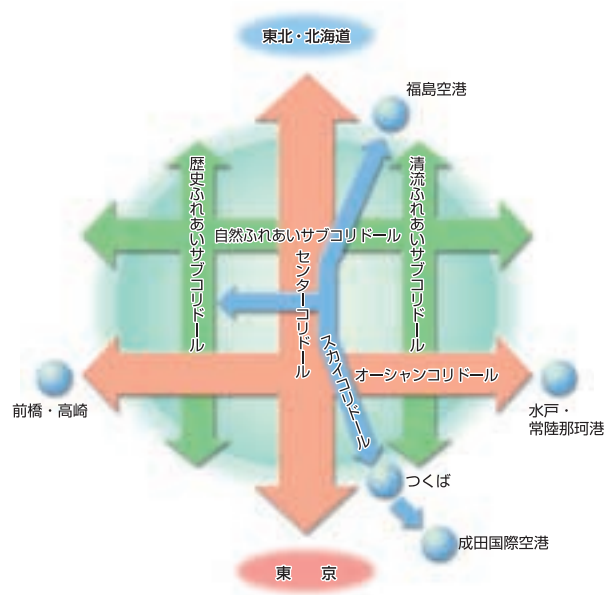
### (1) コリドールネットワークの強化

本県では、交通基盤等を軸に、人、物、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、そのネットワークの形成を進めてきました。

コリドールネットワークは、3つのコリドール（センターコリドール、オーシャンコリドール、スカイコリドール）と3つのサブコリドールから構成され、これらのコリドールが県内で縦横にネットワークを形成することにより、県内の各地域の交流・連携が図られ、さらに全国との結びつきの基盤となります。

このコリドールネットワークを強化・活用することにより、県内各地域間の交流・連携が一層展開するとともに、全国や世界との交流・連携が進展し、「国土交流拠点“とちぎ”」としての本県の発展が可能になります。

コリドールネットワーク



#### 【3つのコリドール】 ～全国や世界とのつながり～

- センターコリドール：東京圏から東北・北海道地域を結ぶ広域圏を形成する国土の主要な連なりであり、情報・文化・人材の交流が展開されます。
- オーシャンコリドール：本県を太平洋と日本海に結びつける広域圏を形成する連なりであり、国際貿易港を通じて世界につながる産業や文化の交流が展開されます。
- スカイコリドール：成田国際空港・つくば及び福島空港を介して産業、文化、観光、科学技術などの国境を越えた多彩な交流が展開されます。

#### 【3つのサブコリドール】 ～県内の個性ある地域の連なり～

- 自然ふれあいサブコリドール：本県北部を中心に茨城県北部と群馬県北部を結び連なりであり、豊かな自然、歴史、文化とのふれあいを通じた交流が展開されます。
- 歴史ふれあいサブコリドール：本県西部を中心に東京圏から会津を結び連なりであり、歴史、伝統、芸術などを活かした交流が展開されます。
- 清流ふれあいサブコリドール：本県東部を中心に福島県、茨城県の県際地域を結び連なりであり、那珂川沿川地域の自然、歴史、文化を活かした交流が展開されます。

## (2) 特色ある地域づくりと交流・連携

「国土交流拠点“とちぎ”」として県土の発展と県民生活の質的向上を図るために、県内各地域が資源を活かした特色ある地域づくりを進め、それぞれの魅力と活力を高めるとともに、機能分担と相互補完による都市的サービスの発展を図り、持続可能で自立・安定した地域社会の形成を目指します。

各地域では、県民やボランティア、NPO、企業、行政などが互いに連携・協力し協働の地域づくり

を行うことにより真に豊かな地域が実現し、さらに、それぞれの地域同士の交流・連携を進めることにより、単独の地域だけでは得られない新たな魅力や活力を創出することが可能となります。

このように特色を活かした地域づくりが重層的に行われ、コリドールネットワークによって県内が縦横に結ばれることで、多彩な“とちぎ”が開きます。

## (3) 広域交流・連携

新たな時代の潮流の中で、経済のグローバル化による国境を越えた地域間競争が激化しており、また、県域を越えた広域的な連携により対応していかなければならない課題なども生じています。

このような流れの中、他県と境を接する県際地域では、隣接県及び関係市町村との連携・協力のもと、生活、産業、文化などの交流が積み重ねられており、今後さらにその連携を深めていきます。

また、コリドールネットワークの強化により、

近隣各県との交流・連携のネットワークが形成されてきています。このネットワークを利用し、空港・港湾などの活用や防災面、観光面における連携など、県域を越えた多様な交流・連携を進め、経済活動の一層の活性化や広域的な課題の解決を図り、さらには“とちぎ”の魅力や活力を世界に向けて発信し、「国土交流拠点“とちぎ”」としての発展に取り組んでいきます。

### 広域交流・連携の取組

**【首都圏整備計画】**（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県）

首都圏整備法に基づき、首都圏の建設とその秩序ある発展を図るため策定される計画

**【5県連携】**（福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県）

5県の一層の発展を図るため、社会基盤の有機的な連携とともに、人・物・情報・産業・文化などの連携・交流を促進する。

**【21世紀FIT構想】**（県際地域市町村、福島県、茨城県、栃木県）

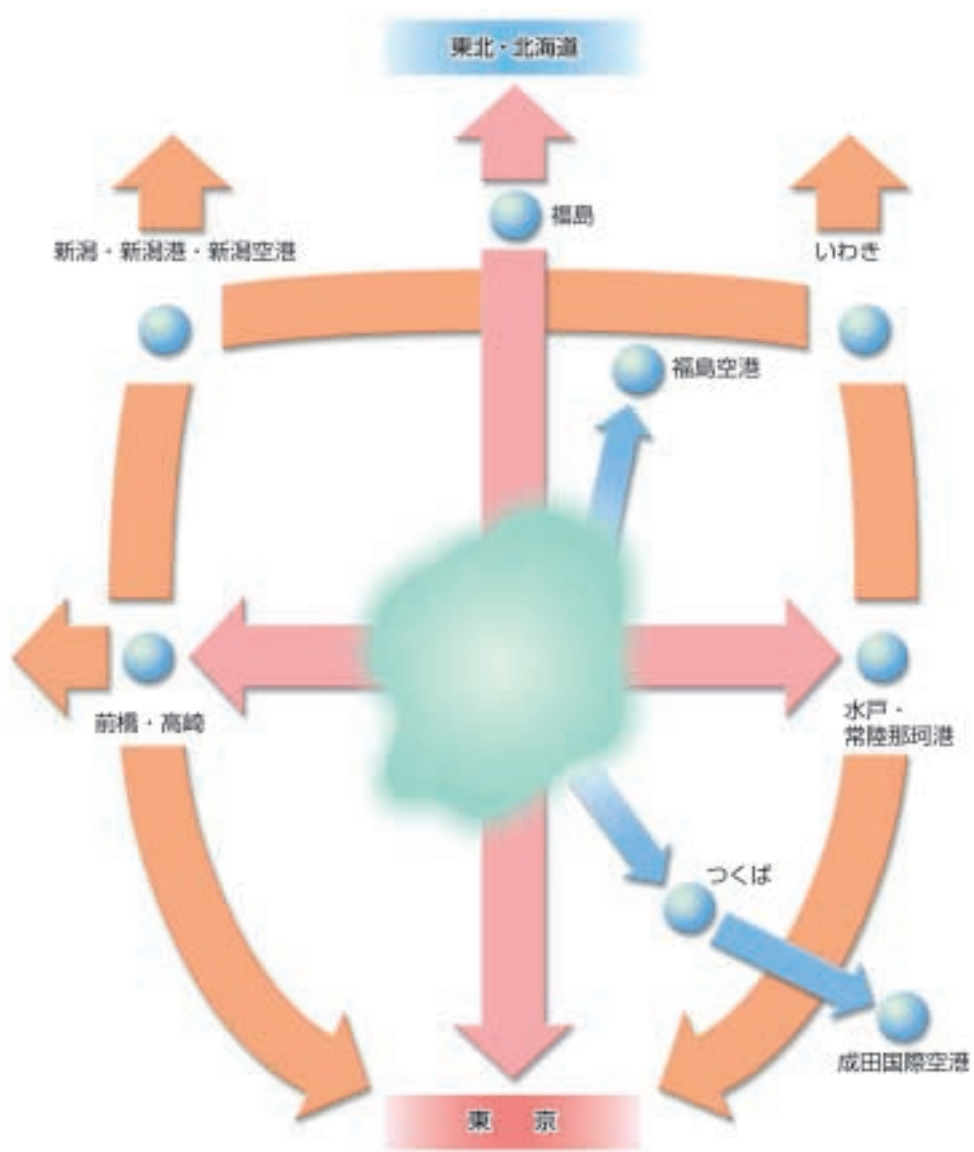
福島（F）・茨城（I）・栃木（T）3県の県際地域を中心として、各地域の特性を相互に生かし、連携・交流を深めることで、広域的な交流圏と自然環境に調和した21世紀にふさわしい新たな先導的拠点を形成しようとする構想。現在、二地域居住や広域観光交流の推進に取り組んでいる。

**【両毛広域都市圏総合整備事業】**（両毛地域市町村、栃木県、群馬県）

地域のより深い交流と、一体となったまちづくりを推進するために、各種PR事業やイベント事業のほか、公共施設の相互利用の推進など、さまざまな事業を展開している。



広域交流・連携のネットワーク



福島空港



北関東自動車道



常陸那珂港